

「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」  
実社会対応プログラム最終評価結果表

課題	制度、文化、公共心と経済社会の相互関連
研究テーマ名	日本の昆布文化と道内生産地の経済社会の相互関連に関する研究
研究代表者	齋藤 貴之
所属機関・部局・職	北海道武蔵女子短期大学・教養学科・専任講師
研究成果の総合評点：B	
研究成果の評価に係る所見	
<p>テーマ自体はユニークであり、また、北海道内の短期大学と博物館との連繫を、博物館展示という形式で、図録作成なども含めて計画したことや、「巻き昆布」文化圏や「お盆昆布」文化圏など「食以外の利用」について歴史的背景や類型分布を全国調査したことは高く評価できる。</p> <p>ただし、日本の伝統文化と昆布との関係性を解明する学習用教材を郷土教育プログラムと関連させつつ博物館で開発・作成したとあるが、これは、本来、開催博物館の事業費でなされるべき性質のものであろう。また「経済社会との相互関連」を研究テーマとしてうたっているが、成果物として挙げられているのが民俗学の研究論文に偏っており、生産・消費の経済的な分析が不足している点は残念である。</p>	

※ 「研究成果の総合評点」に対する標語は下記のとおり。

- S. 研究目的に照らして、期待以上の成果があった
- A. 研究目的に照らして、期待どおりの成果があった
- B. 研究目的に照らして、十分ではなかったが一応の成果があった
- C. 研究目的に照らして、十分な成果があったとは言い難い